

## いま高校教育も大きく変わるとき

# 課題に主体的に取り組む力を生徒に身につけさせるために

文部科学大臣 下村博文

これまでの大学入試センター試験を廃止し、新たな学力評価テストを導入。同時に高校教育と大学教育も大転換する——昨年12月の中教審答申を受け、文部科学省ではいま「高大接続改革」のための制度設計が進んでいます。下村文部科学大臣から高校教育現場へのメッセージをいただきました。

まとめ／広重隆樹 撮影／西山俊哉

### 少子化、グローバル化の時代を幸せに生き抜くための力

#### その力を学校教育で育成しているかを問う 大学入学者選抜改革

近代工業化社会を経て、社会全体が高度な情報化社会に変わりつつあるのに、教育は明治以来の旧態依然のままということが最大の問題です。均一の製品を大量に生産することが求められた時代には、教育も画一型でよかったかもしれない。しかし、情報化

社会では、画一的でなく個別ニーズに即した物やサービスをいかにクオリティ・高く生み出すかが重要なのに、教育がそこに追いついていない現状があります。

日本社会特有の少子高齢化の問題

も看過できません。労働人口の減少をすべて移民労働力で補うわけにいかないとしたら、一人ひとりがもてる力を今まで以上に発揮しなければなりません。子どもたちの潜在能力を引き出すのは一にも二にも教育の力なのです。

職業の形も、会社の仕事も、人々の生活も変わる。そういう社会で幸せに生きようとするとき、若者に求められる能力は何か。一つには課題に対して主体的に取り組む能力。これがあればどんな時代にも新しい道を拓くことができます。さらに企画・創造的な能力も重要です。その一方でロボットやコンピュータがどんなに発達しても、優しさや慈しみといった人間



### 高大接続改革に向けた工程表

高大接続改革に向けた工程表							
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度～
各大学の個別選抜試験	各大学の個別選抜試験のあり方について検討	各大学の個別選抜試験のあり方について検討	各大学の個別選抜試験のあり方について検討	各大学の個別選抜試験のあり方について検討	各大学の個別選抜試験のあり方について検討	各大学の個別選抜試験のあり方について検討	各大学の個別選抜試験のあり方について検討
共通語としての英語力	共通語としての英語力について検討	共通語としての英語力について検討	共通語としての英語力について検討	共通語としての英語力について検討	共通語としての英語力について検討	共通語としての英語力について検討	共通語としての英語力について検討
専門分野	専門分野の学習指導要領について検討	専門分野の学習指導要領について検討	専門分野の学習指導要領について検討	専門分野の学習指導要領について検討	専門分野の学習指導要領について検討	専門分野の学習指導要領について検討	専門分野の学習指導要領について検討
実践主体	実践主体の学習指導要領について検討	実践主体の学習指導要領について検討	実践主体の学習指導要領について検討	実践主体の学習指導要領について検討	実践主体の学習指導要領について検討	実践主体の学習指導要領について検討	実践主体の学習指導要領について検討
英語	英語の学習指導要領について検討	英語の学習指導要領について検討	英語の学習指導要領について検討	英語の学習指導要領について検討	英語の学習指導要領について検討	英語の学習指導要領について検討	英語の学習指導要領について検討
数学	数学の学習指導要領について検討	数学の学習指導要領について検討	数学の学習指導要領について検討	数学の学習指導要領について検討	数学の学習指導要領について検討	数学の学習指導要領について検討	数学の学習指導要領について検討
情報	情報の学習指導要領について検討	情報の学習指導要領について検討	情報の学習指導要領について検討	情報の学習指導要領について検討	情報の学習指導要領について検討	情報の学習指導要領について検討	情報の学習指導要領について検討
外国語	外国語の学習指導要領について検討	外国語の学習指導要領について検討	外国語の学習指導要領について検討	外国語の学習指導要領について検討	外国語の学習指導要領について検討	外国語の学習指導要領について検討	外国語の学習指導要領について検討
芸術	芸術の学習指導要領について検討	芸術の学習指導要領について検討	芸術の学習指導要領について検討	芸術の学習指導要領について検討	芸術の学習指導要領について検討	芸術の学習指導要領について検討	芸術の学習指導要領について検討
体育	体育の学習指導要領について検討	体育の学習指導要領について検討	体育の学習指導要領について検討	体育の学習指導要領について検討	体育の学習指導要領について検討	体育の学習指導要領について検討	体育の学習指導要領について検討
職業	職業の学習指導要領について検討	職業の学習指導要領について検討	職業の学習指導要領について検討	職業の学習指導要領について検討	職業の学習指導要領について検討	職業の学習指導要領について検討	職業の学習指導要領について検討
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間のあり方について検討	総合的な学習の時間のあり方について検討	総合的な学習の時間のあり方について検討	総合的な学習の時間のあり方について検討	総合的な学習の時間のあり方について検討	総合的な学習の時間のあり方について検討	総合的な学習の時間のあり方について検討

高校教育改革(学習・指導方法の充実、教員の資質能力向上、多様な学習活動・学習成果の評価、学習指導要領の見直し)、2つの新テストの実施内容のほか、大学教育の改革、各大学の個別選抜入試改革を、今後どのようなスケジュールで推進していくかを示したものを。  
文部科学省HP: 高大接続システム改革会議(第1回) 配付資料より

## 授業全体を課題発見・解決の主体的協同的な学習の場に

### 21世紀以降の子供たちのために 不可欠の改革

高大接続改革のポイントにはまず大  
学改革にあります。それぞれの大学・

の心は変わらない。そうした人間的  
感性も大切です。  
グローバル化が進む時代には、国際  
共通語としての英語力に加え、自国  
の歴史や文化についての知識、つまり  
国民としてのアイデンティティ形成と  
いったことも欠かすことはできません。

これらの能力をきちんと学校教育  
で身につけてもらう。これまでは個人  
や家庭任せだった部分も学校が責任  
をもつて担う。そしてそれらの能力を、  
大学入学試験で問うようにする。大  
学入試が変われば、高校教育以下の  
教育も変わります。

学部にはどういう人材を育てるのか  
を明確にしたカリキュラム・ポリシーを  
作ってもらう。どんな学生を受け入れ  
るか(アドミッション・ポリシー)、何を  
身につければ卒業させるのか(ディプ  
ロマ・ポリシー)の策定も法的に義務づ  
けます。

大学ごとの個性やポリシーに基づい  
た個別選抜試験のほか、これまでのセ

ンター試験に替えて、思考力・判断力・  
表現力を中心に評価する「大学入学  
希望者学力評価テスト(仮称)」を導  
入します。

これまでは、公平性の観点もあつて、  
1点刻みの試験で選抜することが重  
要だとされていたわけですが、それが  
変わるわけです。私は、これからの時  
代は「オール5」タイプの子ばかりで  
なく、特定分野に秀でたような異質  
な能力の人材も必要とされるように  
なると思う。そのためには知識の多  
寡だけではない、高校時代の多様な  
経験や能力を評価するような選抜  
方法は不可欠になると思うのです。

そこで、高校の教育も変わらざる  
をえません。これまでの学習指導要  
領の抜本的な見直しや、板書書き写  
し型ではない、アクティブ・ラーニングへ  
の転換は急務です。さらに私は「高等  
学校基礎学力テスト(仮称)」を導入  
したい。これは高校教育として生徒  
が共通に身につけるべき学力が必ず  
しも確保されていない現状の改善につ  
ながると確信しています。

要するに、これまでのように高校で  
勉強しなくても大学に入ってしまった  
る仕組み、大学で勉強しなくても卒  
業できてしまっている仕組みを改革  
し、「真の学ぶ力」を多面的に評価す

るようにするという事です。

大学入試改革をトリガーにして、  
日本の教育全体が変わる。例えば歴  
史の授業は暗記一辺倒ではなく、な  
ぜ歴史は変わったのかを考える授業  
になるでしょう。授業全体が、課題の  
発見と解決に向けた主体的協同的  
な学習の場になる。

同時に、新しい入学試験に沿った調  
査書とか評価の方法を考えていく必  
要もありますから、先生方も大変だ  
とは思いますが。この改革を進めるう  
えでは、教員の資質能力の向上が大  
きな課題になると考えています。全  
部現場にお任せというつもりはなく、私  
どもも新しい教育モデルをケーススタ  
ディとして示しながら、改革の現場へ  
の浸透を促していきたいと考えてい  
ます。

改革には時間がかかりますし、大  
学だけ高校だけを変えても意味がな  
い。高大にまたがる改革案をトータル  
パッケージとして固め、平成32年度ま  
で続く長大な工程表を立てたのはそ  
のため。この改革はたとえ大臣や政権  
が代わったとしても止むことはない。  
21世紀以降の世界を私たちの子ども  
たちが力強く生き抜くために不可欠  
の改革。それがいま待ったなしで求め  
られているのです。

